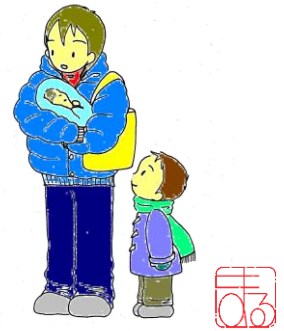


おかげさま と ありがたい の話



「だいぶ寒くなってきました。風邪などをひかないよう、みんなで元気に過ごしましょう。では、朝の挨拶をしましょう。おはようございます。(おはようございまあす。)」

今、6年生のお兄さんのお話にあったように、だいぶ寒くなってきました。辺りはすっかり冬の様子です。

それもそのはず、今日は11月28日。今日を入れてあと三日で11月も終わり。そして12月。もう12月、1年の最後の月。いつのまにか、今年も終わりに近づいてきました。

この一年間、1年生も2年生も、3年生も4年生も、5年生も6年生も、みんなみんないろいろなことがあって、でもどのみなさんもきっといろいろな人の力を借りながら、いろいろな人のおかげで、元気に過ごしてくることができたのだと思います。

そして、この1年間で、年長さんが1年生に、1年生が2年生に、2年生が3年生に、3年生が4年生に、4年生が5年生に、そして5年生だった皆さんが今6年生になってがんばってくれているのです。みんなみんな、力を合わせ助け合いながら1年間の間元気に過ごし、一つ一つできないことをできるようにしてきたのですよね。

そして、最後の月、12月をむかえることができるのです。。

そこで今日は、毎年12月近くになると話す『おかげさまとありがたい』というお話をします。去年もお話をしたので覚えていてくれる人もいるかもしれません。

先週11月にしてはめずらしく雪が降り、積もりました。その日の朝も、雪が湯もって重くなった傘をさして、いつも通り外で皆さんを迎えていると、「校長先生、雪のなかありがとう。」と、精いっぱい元気に気持ちのよい挨拶を何人もの人がしてくれました。なんだかとってもうれしくて元気の出る素敵な気分になりました。

そして、「ありがとう」、「ありがたい」、って思える人はすてきだなと思いました。そして今からするお話のおじいさんのことを思い出しました。

もう10年以上も前に亡くなられた方ですが、お元気だったら、今一番会いたいおじいさんがいます。そして、12月くらいになると、このおじいさんのことを思い出します。わたしがまだ八成小学校にいた頃、よく校長室に訪ねてきてくださいました。

この方は、いつもお会いすると、「おかげさまでね・・・。」「・・・、ありがたいことだよ。」という言葉が口癖で、いかにもありがたそうに優しくお話しをなさる方でした。

おかげさまでいい天気。おかげさまで大根が大きくなった。おかげさまで元気でいられる。

おかげさまで・・・。おかげさまで・・・。ありがたい、ありがたい。

こんなふうに、いつもいつもお礼を言っているようにみえますが、このおじいさんは決して人のお世話になっている人でも、人に助けられてばかりいる人でも、ありません。いえいえ、それどころか、逆に人のことをいつも心配して、いつも人の手助けをして、どんな人でも困っていればその人の相談にのり、一緒に悩み、自分のできることは何でもやってあげる。自分のことだけもいそがしいのに人のことを先にやってあげる。そんな、おじいさんなのです。

それなのに、いつも「おかげさまで・・・。」

いったい誰のおかげなのでしょう、むかし誰かに助けられたのでしょうか・・・。

いえいえ、そうではありません。このおじいさんは、いつも人に感謝する気持ち、ありがたいという気持ちを忘れない人なのです。誰かのおかげで、自分は元気で幸せにすごすことができる、「ありがたい ありがたい」と、思える人なのです。

「おかげさまでね、孫の書いた習字がね、廊下に張り出されているのでね、見させていただきまますよ、ありがたいことに先生がよく見ていて、励ましてくれてるんでしょうねえ。孫がうちで、先生がほめてくれたって言って大喜びですよ、おかげさんでこれまで苦手だった習字が大好きになっちゃった。おかげさまでですよ。ありがたい、ありがたい。」

そして、そんなどんなことでもありがたいと思う感謝の気持ちがあるからこそ、近くに困っている人がいれば、黙ってその人のために精一杯のことをして助けてあげられるのです。それも「当

たり前でしょう。」「お互い様ですよ。」といいながら。

ですから私もこのおじいさんとお会いすると、思わず「おかげさまで・・・。」という気持ちになり、どんなことでもお手伝いさせてもらいたいな、という気持ちになってしまいます。

ところがね、桃五小の教室を回って、オープンスペースからそっと見ていると、ありがたいのとかおかげ様の反対言葉。「どうせ」、「のに」、「でも」、「だって」、の人がけっこうたくさんいるのが、とても悲しいのです。

「どうせぼくなんか・・・。」とすねてしまったり、「こんなにがんばっているのに・・・。」と言い訳をしたり、いつも手助けしてくれている友だちに向かって「でも、〇〇ちゃんだって僕のこと押しもん。」と叩いてしまったり、「だって、お母さんが・・・。」と、自分のことは反省もせず人のせいにしてしまったり・・・、自分のことは反省もせず、いいわけばかり。こんなことでは、悪いところをなおすこともできないですね。

人は皆、誰も一人では生きていけません。気づかずにいるだけで、どこかで必ず誰かに助けられているはずなのです。けれどもそのことを感じる心、「ありがたいと思う心」、「おかげさまと思う心」いつの間にか忘れていませんか。

来年は皆さん、1年生は2年生に、2年生は3年生、4年生は5年生、5年生は6年生、そして6年生は中学生です。

明日から12月。来年に向けた大切なまとめの月。

さてさて、皆さんは「おかげさま・・・」「ありがたい・・・。」とってまわりの人に感謝してすごし、新しい年を迎えることができるのでしょうか。

それとも逆に、自分の失敗や悪いことは人にせいにして、「どうせ、のに、でも、だって」と思って人のせいにしたりいいわけばかりしてしまうのでしょうか・・・？

どちらでしょう・・・。今年の終わりの月、12月にひとつ「今年1年間の自分」のことを考えてみてください。



おおさむ こさむ

やまからこぞうがおいってくる

・・・かぜなどひかないように